

資料2 「目標による管理」の校内研修への応用

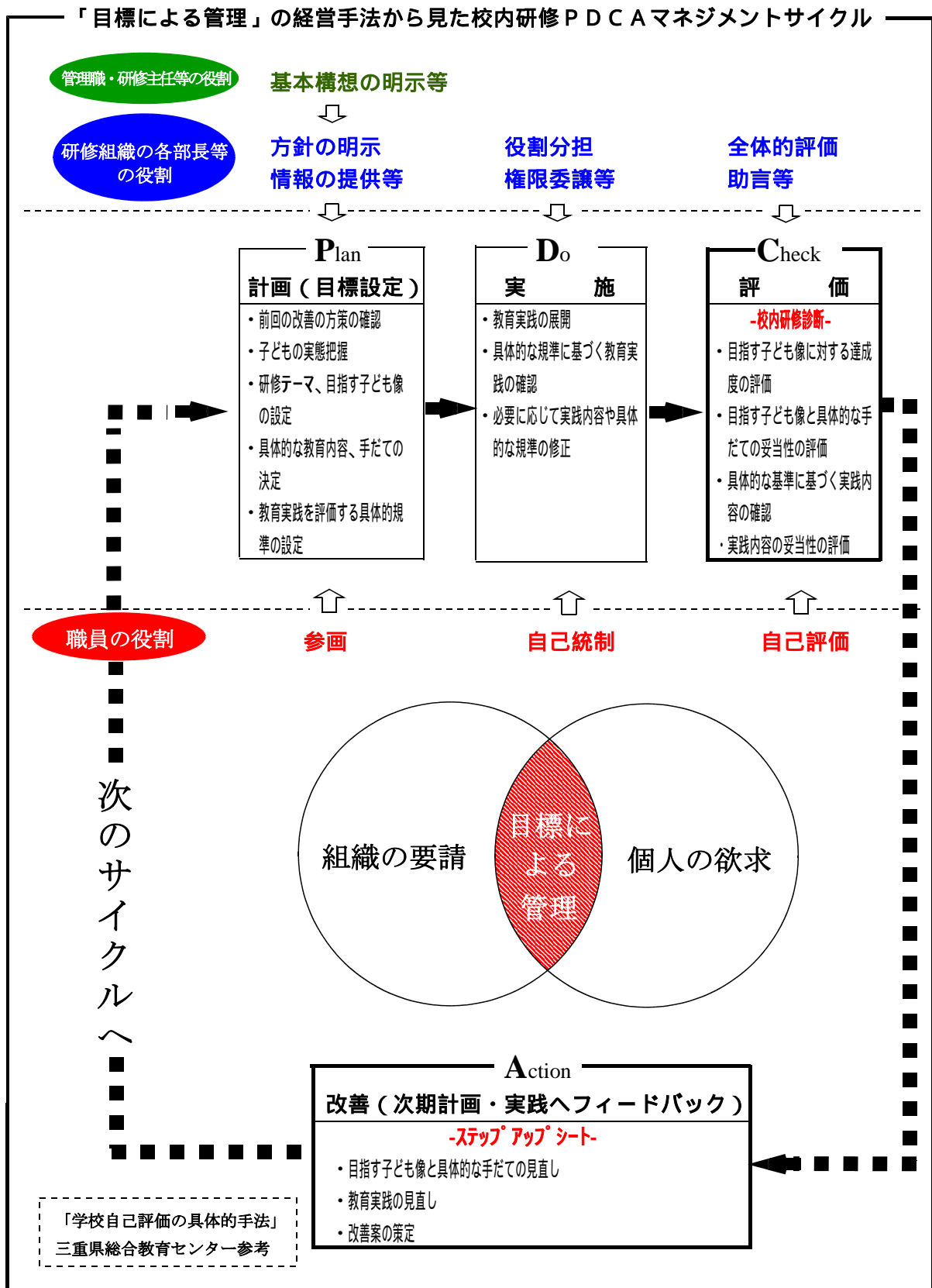


図6 校内研修PDCAマネジメントサイクル

1 「目標による管理」(Management By Objectives & Selfcontrol)とは

「目標による管理」とは、組織としての目標の達成と、その組織で働く人々の個々の欲求の充足との統合を目指した企業経営の手法である。この理論はアメリカのマグレガーらによって提唱され、日本にも昭和30年代後半に入ってきた。現在では、この「目標による管理」によるマネジメント理論は各企業の特徴を生かした様々なマネジメント手法へと発展を遂げている。また、近年になって、各自治体で「目標による管理」の理論に基づくマネジメント手法の導入が進められるようになり、学校教育にあっても、学校評価の領域などで、このマネジメント手法を応用しての研究が始まっている。

2 「目標」と「自己統制」

「目標による管理」では、「目標」と「自己統制」の二つがキーワードになっている。

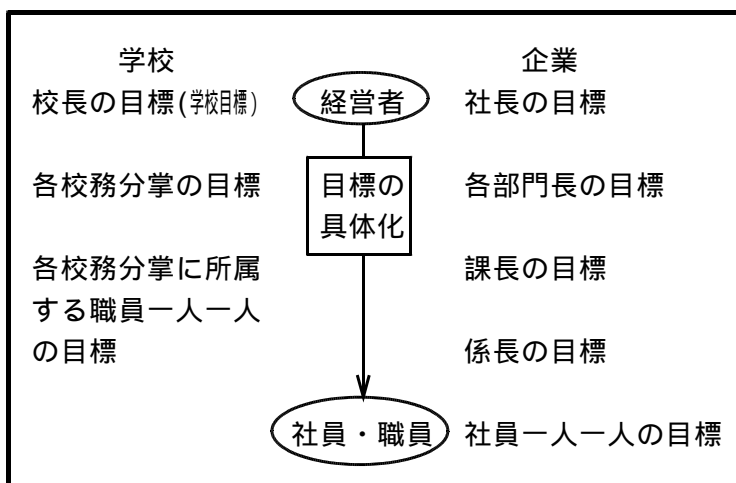


図7 「目標による管理」による目標設定の流れ

「目標による管理」では仕事の成果を重視しており、成果は目標と関係している。図7は、学校と企業の目標設定の流れを示したものであるが、「目標による管理」では、下りてきた目標を検討し、よりかみ砕いた目標を設定していくことで、経営者から一般層までが目標づくりに参画する。この参画こそが組織の目的と個人の欲求の統合であり、この参画過程の工夫が個人の仕事への意欲を高めると考えられている。

「自己統制」とは、他人からの強制ではなく、本人の意見や考えを尊重しようという考え方である。従って、「目標における管理」では、上司と部下との考えを摺り合わせて目標が設定され、PDCAマネジメントサイクルのD(実施)段階でかなりの権限は部下に委譲され、個人にとって、目標は「自分からチャレンジしたい目標」になっていく。

3 「目標による管理」の校内研修への応用

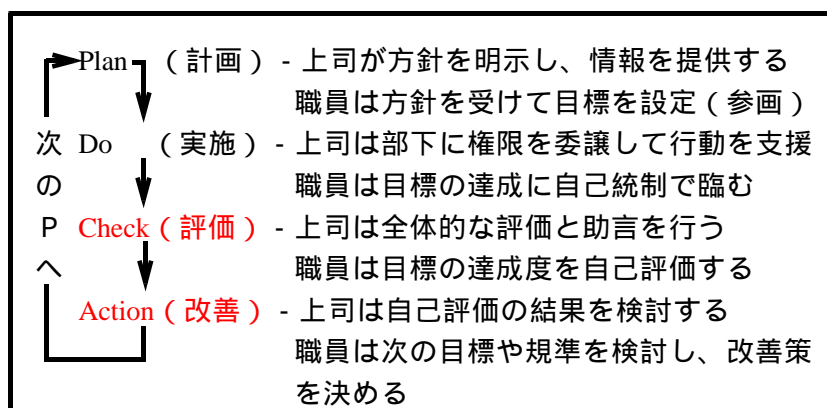


図8 「目標による管理」のPDCAマネジメントサイクル

図6は図8の「目標による管理」のPDCAマネジメントサイクルの考え方を基にして、校内研修のマネジメントサイクルを構想したものである。

本研究では、研究期間の関係などから、このうちのCheck(評価)のステップにおける「校内研修診断」とAction(改善)ステップにおける「ステップアップ

シート」を校内研修の具体的な改善策として提言し、その有効性を検証することにした。この改善策が有効に働けば、校内研修のPDCAマネジメントサイクルがぐるぐる循環を始め、校内研修の諸活動のレベルが高まるものと考えられる。